

希少 コウチュウ目 カミキリムシ科

## タケトラカミキリ

*Chlorophorus annularis* (Fabricius)

【選定根拠】 a どの生息地においても低密度で希少

【形態】 体長10~15mm。体は細形だが前胸が幅広く、淡黄色から黄色の微毛を密生し、黒色紋を持っている。

【分布】 本州、四国、九州、伊豆諸島、佐渡、巻岐、対馬、屋久島、琉球列島に分布しているが関東以北の記録はほとんどない。

【県内の分布、生息状況】 浜通りのいわき市と楡葉町から各1例ずつの報告があるのみである。平地のタケ林に依存しており、成虫はタケ類の乾燥した材に集まる。福島県が分布の北限となっている。

【主要文献】

松崎有光・田添京二・大桃定洋(1987)阿武隈山地のカミキリ続報。月刊むし, (202): 7-8.

久保田博道(1976)双葉郡・楡葉町付近のカミキリ。磐城高等学校生物部報(昭和52年2月): 14-20.

希少 コウチュウ目 カミキリムシ科

## ワモンサビカミキリ

*Pterolophia annulata* (Chevrolat)

【選定根拠】 a どの生息地においても低密度で希少

【形態】 体長9.5~14.5mm。体は暗褐色から黒褐色で、茶褐色の微毛に密に覆われている。小たて板の周辺は茶褐色の微毛をそなえ、上翅中央には灰白色微毛による不明瞭な環状紋がある。

【分布】 本州、四国、九州、佐渡、伊豆諸島、隠岐、対馬、屋久島、種子島、琉球列島に広く分布し、本州では海流の影響を受けた温暖な地域に多く見られる。

【県内の分布、生息状況】 佐藤(1998)による岩瀬村の記録が唯一のもの。岩瀬村での個体は灯火に飛来した。福島県が分布の北限となっている。

【主要文献】

佐藤三國(1998)福島県でワモンサビカミキリを採集。月刊むし, (323): 43.

希少 コウチュウ目 カミキリムシ科

写真ページ<sup>27</sup>

## カスガキモンカミキリ

*Paramenesia kasugensis* (Seki et Kobayashi)

【選定根拠】 a どの生息地においても低密度で希少

【形態】 体長8~11mm。前胸背板はほぼ筒状で、正中部と側面は黄色でほかは黒色を呈している。上翅は基部が褐色を帯び、5対の黄色紋を有している。上翅端はまるいかわずかに切断状。近似種のカモンカミキリは、上翅端に黄色紋がないことで区別は容易である。

【分布】 本州、四国、九州、対馬に分布している。

【県内の分布、生息状況】 阿武隈高地のいわき市と原町市から記録されており、原町市ではイヌシデより蛹と成虫が見いだされた。福島県が分布の北限となっている。

【主要文献】

田添京二(1980)福島県産甲虫覚書 その10。福島生物, (23): 1-5.

田添京二・大桃定洋(1981)福島県のカスガキモンカミキリ。月刊むし, (120): 34.

田添京二・大桃定洋(1991)阿武隈山地のカミキリ目録 その後の追加記録。ふくしまの虫, (9): 12-17.

希少 コウチュウ目 ハムシ科

## キンイロネクイハムシ

*Donacia japana* Chujo et Goecke

【選定根拠】 b 生息地が局限

【形態】 体長7.5~9.0mm。背面は全体が金銅色を呈し、上翅中央部に常に赤銅色の縦条を有するため、多種との判別は容易である。

【分布】 本州、九州に分布している。

【県内の分布、生息状況】 塙町、泉崎村、川内村から記録されており、他にいわき市でも得られている。ミクリ葉上やウマスゲ花上から見いだされる。

【主要文献】

小宮義璋・大桃定洋・高桑正敏(1986)ネクイハムシ類1985年の採集、観察記録。甲虫ニュース, (71): 5-6.

大桃定洋(1987)ネクイハムシ類調査報告(1986年)。Donacist, (1): 7-9.

大桃定洋(1993)県南地方の甲虫分布資料(その4。ネクイハムシ亜科)。ふくしまの虫, (11): 3-5.